

# 横查情報月報



2019  
3月

横浜市衛生研究所

# 平成31年3月号 目次

## 【トピックス】

食品中の動物用医薬品検査結果(平成30年9月～平成31年2月) .....	1
農産物の残留農薬検査結果(平成30年11月～平成31年2月) .....	3

## 【感染症発生動向調査】

横浜市感染症発生動向調査報告 2月 .....	5
-------------------------	---

## 【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報 .....	9
---------------------	---

# 食品中の動物用医薬品検査結果 (平成30年9月～平成31年2月)

当所では、食品中の動物用医薬品検査を行っています。今回は、健康福祉局食品専門監視班が平成30年9月にインターネットを通じて購入した食品及び平成31年2月に収去した食品の検査結果を報告します。

9月は、ウサギの筋肉3検体、馬の筋肉1検体、山羊の筋肉1検体、七面鳥の筋肉1検体、鶏の筋肉1検体及びその他の家禽の筋肉3検体(カモ、キジ及びホロホロ鳥各1検体)の計10検体について検査を行いました。その結果、表1に示す通り全ての項目で不検出でした。

また、2月は蜂蜜2検体、牛乳2検体及び鶏卵6検体の検査を行いました。その結果、表2に示す通り全ての項目で不検出でした。

**表1 検査項目、検査結果及び検出限界(平成30年9月)**

検査項目	検査結果						検出限界
	ウサギの 筋肉 (3検体)	馬の筋肉 (1検体)	山羊の 筋肉 (1検体)	七面鳥の 筋肉 (1検体)	鶏の筋肉 (1検体)	その他の 家禽の 筋肉 (3検体)	
<b>【合成抗菌剤】</b>							
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オキシリニック酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルビフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
オルメプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
クロビドール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ジフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメキシシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
トリメプリム	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ノルフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
ピロミド酸	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
フルメキン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	N.D.	0.01
<b>【内寄生虫用剤】</b>							
フルベンダゾール	-	-	-	N.D.	N.D.	N.D.	0.002

単位:ppm    N.D.:不検出    -:実施せず

表2 検査項目、検査結果及び検出限界(平成31年2月)

検査項目	検査結果			検出限界
	蜂蜜 (2検体)	牛乳 (2検体)	鶏卵 (6検体)	
<b>【合成抗菌剤】</b>				
エンロフロキサシン (シプロフロキサシンとの和)	-	N.D.	-	0.01
オキシリニック酸	-	N.D.	N.D.	0.01
オフロキサシン	-	N.D.	-	0.01
オルビフロキサシン	-	N.D.	N.D.	0.01
オルメトプリム	-	N.D.	N.D.	0.01
クロピドール	-	N.D.	N.D.	0.01
サラフロキサシン	-	N.D.	-	0.01
ジフロキサシン	-	N.D.	N.D.	0.01
スルファキノキサリン	-	N.D.	N.D.	0.01
スルファジアジン	-	N.D.	N.D.	0.01
スルファジミジン	-	N.D.	N.D.	0.01
スルファジメトキシ	-	N.D.	N.D.	0.01
スルファドキシ	-	N.D.	N.D.	0.01
スルファピリジン	-	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキサゾール	-	N.D.	N.D.	0.01
スルファメキシピリダジン	-	N.D.	N.D.	0.01
スルファメラジン	-	N.D.	N.D.	0.01
スルファモノメトキシ	-	N.D.	N.D.	0.01
ダノフロキサシン	-	N.D.	N.D.	0.01
チアンフェニコール	-	N.D.	N.D.	0.01
トリメトプリム	-	N.D.	N.D.	0.01
ナリジクス酸	-	N.D.	-	0.01
ノルフロキサシン	-	N.D.	-	0.01
ピロミド酸	-	N.D.	-	0.01
フルメキン	-	N.D.	N.D.	0.01
マルボフロキサシン	-	N.D.	-	0.01
<b>【抗生物質】</b>				
オキシテトラサイクリン	N.D.	-	-	0.02
クロルテトラサイクリン	N.D.	-	-	0.03
テトラサイクリン	N.D.	-	-	0.02
オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの和	-	N.D.	N.D.	0.02
クロラムフェニコール	N.D.	-	-	0.0005
<b>【殺虫剤】</b>				
クマホス	N.D.	-	-	0.01

単位:ppm N.D.:不検出 -:実施せず

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

# 農産物の残留農薬検査結果(平成30年11月～平成31年2月)

食品中に残留する農薬等が人の健康に害を及ぼすことのないよう、厚生労働省は農薬等について残留基準を設定しています。当所では、横浜市内に流通する農産物に残留する農薬の検査を行っています。

今回は、平成30年11月及び平成31年2月に健康福祉局食品専門監視班、各区福祉保健センターが収去した農産物の検査結果を報告します。

## 1 市内産農産物

11月に搬入された米(3検体)、キャベツ、さつまいも及びこまつな(各1検体)、2月に搬入されただいこんの根、はくさい(各2検体)、キャベツ、さといも及びにんじん(各1検体)の計13検体について検査を行いました。

その結果、農薬が検出されたものではありませんでした。検査項目及び検出限界については表に示しました。

## 2 国内産農産物

11月に搬入されたキャベツ(群馬県産)、さつまいも(徳島県産)、じゃがいも(北海道産)、トマト(愛知県産)及びはくさい(茨城県産)の計5検体について検査を行いました。

その結果、農薬が検出されたものではありませんでした。検査項目及び検出限界については表に示しました。

表 農薬の検査項目及び検出限界

農薬名	検出限界(ppm)	農産物				農薬名	検出限界(ppm)	農産物			
		A*1	B*1	C*1	D*1			A	B	C	D
BHC(α, β, γ 及び δ の和)	0.005	○*2	○	-*2	○	シアノホス	0.01	○	○	○	○
DDT(DDE,DDD,DDTの和*3)	0.005	○	○	○	○	ジエトフェンカルブ	0.01	○	○	○	○
EPN	0.01	○	○	○	○	ジコホール	0.01	○	○	○	○
アクリナトリン	0.01	○	○	○	○	シニドソエチル	0.01	-	○	○	-
アセタミプリド	0.01	○	○	○	○	シハロトリン	0.01	○	○	○	○
アゾキシストロビン	0.01	○	○	○	○	ジフェノコナゾール	0.01	○	○	○	-
アラクロール	0.01	○	○	○	○	シフルトリン	0.01	○	○	○	○
アルドリソ及びディルドリン	0.005	○	○	-	○	シフルフェナミド	0.01	○	○	○	-
イソキサチオン	0.01	-	-	○	○	シプロコナゾール	0.01	○	○	○	○
イミダクロプリド	0.01	○	○	○	○	シペルメトリン	0.01	○	○	○	○
インドキサカルブ	0.01	○	○	○	○	ジメエート	0.01	○	○	○	○
エトキサゾール	0.01	○	○	○	○	ジメモルフ	0.01	○	○	○	○
エトフェンプロックス	0.01	○	○	○	○	シラフルオフェソ	0.01	○	○	○	○
エポキシコナゾール	0.01	○	○	○	○	ダイアジソ	0.01	○	○	○	○
エンドスルフェソ(α 及び β の和)	0.005	○	○	○	○	ダイムロソ	0.01	○	○	○	○
エンドリン	0.005	○	○	○	○	チアクロプリド	0.01	○	○	○	○
オキサミル	0.01	○	○	○	○	チアメトキサム	0.01	○	○	-	○
カルバリル	0.01	○	○	○	○	テトラコナゾール	0.01	○	○	○	○
カルプロパミド	0.01	○	○	○	○	テブコナゾール	0.01	○	○	○	○
クミルロソ	0.01	○	○	○	○	テブフェソジド	0.01	○	○	○	○
クレソキシムメチル	0.01	○	○	○	○	テブフェソピラド	0.01	○	○	○	○
クロチアニジン	0.01	○	○	○	○	テフルトリン	0.01	○	○	○	○
クロマフェソジド	0.01	-	○	○	○	トリアジメノール	0.01	○	○	○	○
クロルピリホソ	0.01	○	○	○	○	トリアゾホソ	0.01	○	○	○	○
クロルピリホソメチル	0.01	○	○	○	○	トリチコナゾール	0.01	-	○	○	○
クロルフェソナピル	0.01	○	○	○	○	トリフルミゾール	0.01	○	-	-	-
クロルプロファム	0.01	○	○	○	○	トリフルラリン	0.01	○	○	-	○
クロロクソロソ	0.01	○	○	○	○	トリフロキシストロビン	0.01	○	○	○	○
シアゾファミド	0.01	○	○	○	○	トルクロホソメチル	0.01	○	○	○	○
シアノフェソホソ	0.01	○	○	○	○	トルフェソピラド	0.01	-	○	○	○

表 農薬の検査項目及び検出限界(続き)

農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物				農薬名	検出 限界 (ppm)	農産物			
		A	B	C	D			A	B	C	D
ノバルロン	0.01	○	○	○	○	フルバリネート	0.01	○	○	○	○
パラチオン	0.01	○	○	○	○	フルフェノクスロン	0.01	○	○	○	○
パラチオンメチル	0.01	○	○	○	○	フルリドン	0.01	○	○	○	○
ビフェントリン	0.01	○	○	○	○	プロシミドン	0.01	○	○	○	○
ピラクロストロビン	0.01	-	○	-	-	プロチオホス	0.01	○	○	○	○
ピリダベン	0.01	○	○	○	○	プロパホス	0.01	○	○	○	○
ピリプロキシフェン	0.01	○	○	○	○	プロピコナゾール	0.01	○	○	○	○
ピリミカーブ	0.01	○	○	○	○	プロピザミド	0.01	○	○	○	○
ピリミノバックメチル	0.01	○	○	○	○	プロモプロピレート	0.01	○	○	○	○
ピリミホスメチル	0.01	○	○	○	○	ヘキサコナゾール	0.01	○	○	○	○
ピリメタニル	0.01	-	○	-	-	ヘプタクロル(エポキシドを含む)	0.005	-	○	-	○
ファモキサドン	0.01	○	○	○	○	ペルメトリン	0.01	○	○	○	○
フィプロニル	0.002	-	○	○	○	ペンコナゾール	0.01	○	○	○	○
フェナリモル	0.01	○	○	○	○	ペンシクロン	0.01	○	○	○	○
フェントロチオン	0.01	○	○	○	○	ベンゾフェナップ	0.01	○	○	○	○
フェノブカルブ	0.01	○	○	○	○	ベンダイオカルブ	0.01	○	○	○	○
フェンクロルホス	0.01	○	○	○	○	ボスカリド	0.01	-	○	○	-
フェンスルホチオン	0.01	○	○	○	○	ホスチアゼート	0.01	○	○	○	○
フェントエート	0.01	○	○	○	○	マラチオン	0.01	○	○	○	○
フェンバレレート	0.01	○	○	○	○	ミクロブタニル	0.01	○	○	○	○
フェンピロキシメート	0.01	○	○	○	○	メタラキシル及びメフェノキサム	0.01	○	○	○	○
フェンブコナゾール	0.01	○	○	○	○	メチダチオン	0.01	○	○	○	○
フェンプロパトリン	0.01	○	○	○	○	メキシフェノジド	0.01	○	○	○	○
フサライド	0.01	○	○	○	○	メトラクロール	0.01	○	○	○	○
ブタフェナシル	0.01	○	○	○	○	リニューロン	0.01	○	○	○	○
ブプロフェジン	0.01	○	○	○	○	リンデン( $\gamma$ -BHC)	0.005	○	○	○	○
フルジオキサニル	0.01	○	○	○	○	ルフエヌロン	0.01	-	○	○	○
フルシトリネート	0.01	○	○	○	○	レナシル	0.01	○	○	○	○
フルトラニル	0.01	○	○	○	○						

\*1 A:米 B:こまつな、トマト、にんじん C:キャベツ、だいこんの根、はくさい D:さつまいも、さといも、じゃがいも

\*2 ○:実施、-:実施せず

\*3 DDTは $p,p'$ -DDE、 $p,p'$ -DDD、 $o,p'$ -DDT及び $p,p'$ -DDTの和

【 理化学検査研究課 微量汚染物担当 】

## 横浜市感染症発生動向調査報告 2月

### 《今月のトピックス》

- インフルエンザ報告数が警報解除基準値(10.00)を下回りました。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。

#### ◇ 全数把握の対象

##### 〈2月期に報告された全数把握疾患〉

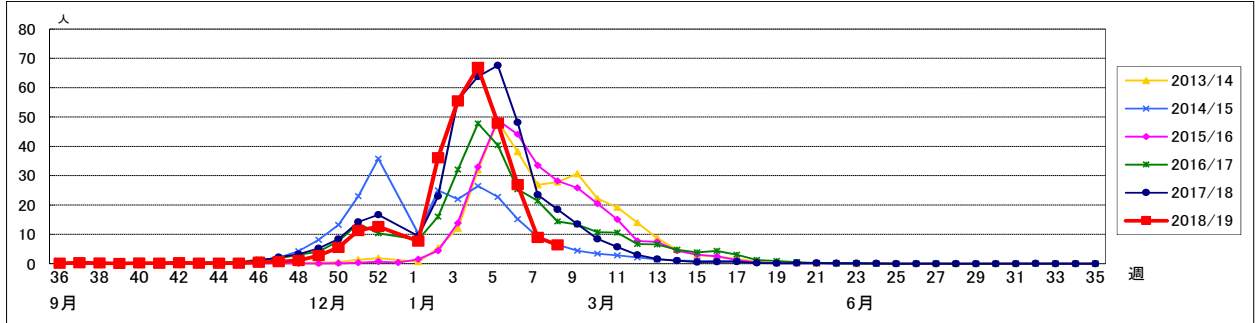
腸管出血性大腸菌感染症	3件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3件
腸チフス	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症含む)	2件
E型肝炎	2件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2件
レジオネラ症	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	8件
アメーバ赤痢	2件	梅毒	10件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	6件	百日咳	15件
急性脳炎	5件	風しん	16件
クロイツフェルト・ヤコブ病	1件	麻しん	1件

- 腸管出血性大腸菌感染症: O157の報告が3件ありました。
- 腸チフス: ミャンマーでの経口感染と推定される報告が1件ありました。
- E型肝炎: 経口感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件ありました。
- レジオネラ症: 肺炎型の報告が3件あり、感染経路等不明でした。
- アメーバ赤痢: 腸管アメーバ症の報告が1件、腸管および腸管外アメーバ症の報告が1件あり、いずれも感染経路等不明でした。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症: 6件の報告があり、感染経路等不明でした。
- 急性脳炎: 幼児の報告が4件、小児の報告が1件あり、病原体はインフルエンザが4件、不明が1件でした。
- クロイツフェルト・ヤコブ病: その他の孤発性プリオン病の報告が1件ありました。
- 劇症型溶血性レンサ球菌感染症: 50歳代のA群、B群、90歳代のG群の報告が1件ずつありました。
- 後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む): AIDSの報告が1件(同性間性的接触)、その他の報告が1件(感染経路等不明)ありました。いずれも男性でした。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症: 80歳代の報告が2件ありました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症: 幼児の報告が1件(ワクチン接種あり)、40歳代の報告が2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)、60歳代の報告が2件(ワクチン接種なし1件、不明1件)、70歳代の報告が2件(ワクチン接種なし)、80歳代の報告が1件(ワクチン接種不明)ありました。
- 梅毒: 10件の報告(無症状病原体保有者3件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、早期顕症梅毒Ⅱ期1件、晩期顕症梅毒2件)がありました。感染地域は国内8件、台湾が1件、不明が1件でした。感染経路は異性間性的接触が8件、詳細不明の性的接触が1件、感染経路不明が1件でした。男性7件、女性3件でした。
- 百日咳: 10歳未満では乳児が2件(ワクチン接種なし)、幼児が2件(ワクチン接種あり)、小児が6件(ワクチン接種あり5件、不明1件)の報告があり、10歳代で2件(ワクチン接種あり1件、不明1件)、30歳代で1件(ワクチン接種不明)、40歳代で2件(ワクチン接種不明)の報告がありました。
- 風しん: 検査診断例16件が報告されています。20歳代6件(ワクチン接種なし1件、不明5件)、30歳代4件(いずれもワクチン接種不明)、40歳代4件(ワクチン接種あり2件、なし1件、不明1件)、50歳代2件(ワクチン接種不明)でした。男性12件、女性4件でした。
- 麻しん: フィリピンでの感染と推定される10歳代の報告が1件ありました。

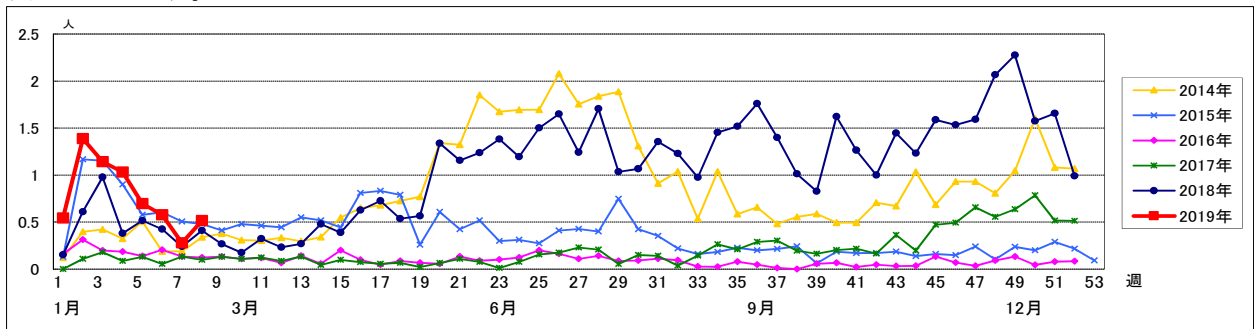
◇ 定点把握の対象

1 インフルエンザ: 2018年第48週に定点あたり1.07にて流行開始し、第51週に11.31にて注意報発令、2019年第2週に36.08にて警報発令されました。第4週に66.88でピークとなった後、第7週に8.91にて警報解除となりました。第8週は6.44となっています。

報告週対応表	
第5週	1月28日～2月3日
第6週	2月4日～2月10日
第7週	2月11日～2月17日
第8週	2月18日～2月24日



2 伝染性紅斑: 2017年第45週頃より増加傾向となり、例年と比べて高値で推移しています。2018年第48週で2.07となり警報発令基準を上回りましたが、第8週では定点あたり0.52となっており、警報解除基準値を下回っています。



3 性感染症(1月)

性器クラミジア感染症	男性:20件	女性:31件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:3件	女性:14件
尖圭コンジローマ	男性:6件	女性:3件	淋菌感染症	男性:13件	女性:4件

4 基幹定点週報

	第5週	第6週	第7週	第8週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.50	0.00	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.25	0.00	0.00

5 基幹定点月報(1月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	3件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	—	—

【 感染症・疫学情報課 】



◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点60件、内科定点17件、基幹定点13件、定点外医療機関から搬入された検体は4件でした。

3月5日現在、ウイルス分離45株と各種ウイルス遺伝子23件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上	下	イン	咽	RS	皮下
	気	気	フル	(ア	ウ	下
	道	道	エン	デ	イル	気
	炎	炎	ザ	ノ	ス	腫
				結	感	・
				膜	染	縦
				熱	症	隔
						気
						腫
インフルエンザ AH1pdm09型			12			
			5			
インフルエンザ AH3型			29			1
			9			
インフルエンザ B型			1			
アデノ 型未同定	1					
アデノ 3型		1				
アデノ 5型				1		
ヒトメタニューモ		3				
RS					1	
ヒトコロナ 229E or NL63	1	1				
ライノ	1	1				
合計	0	1	42	1	0	1
	3	5	14	0	1	0

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

## 〈細菌検査〉

「菌株同定」依頼は、基幹定点からサルモネラ属菌2件、下痢原性大腸菌が2件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌1件、肺炎球菌1件、腸管出血性大腸菌1件となっており、非定点からの依頼は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌4件、非結核性抗酸菌2件、マイコプラズマ1件ありました。

保健所からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌6件、腸管出血性大腸菌2件、肺炎球菌2件、劇症型溶血性レンサ球菌2件等の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からレプトスピラ1件、食中毒菌1件、保健所から喀痰のレジオネラ属菌2件の検査依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌4件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(2月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	1	<i>Enterobacter aerogenes</i>
	下痢原性大腸菌	2	EAggEC:O111、病原関連遺伝子不検出:O25
	サルモネラ属菌	2	<i>Salmonella</i> Bareilly, <i>Salmonella</i> Paratyphi B
	腸管出血性大腸菌	1	O157:H- VT1 VT2
	劇症型溶血性レンサ球菌	1	B群溶血性レンサ球菌 V型
非定点	肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 型別不能
	マイコプラズマ同定	1	<i>Mycoplasma hominis</i>
	非結核性抗酸菌	2	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> <i>Mycobacterium shinjukuense</i>
保健所	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	4	<i>Enterobacter cloacae</i> (1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (2)、 <i>Pantoea</i> spp.(1)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	6	<i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Enterobacter cloacae</i> (5)
	腸管出血性大腸菌	2	O157:H7 VT1 VT2、O157:H7 VT2
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Typhi
	肺炎球菌	2	<i>Streptococcus pneumoniae</i> 型別不能
	劇症型溶血性レンサ球菌	2	B群溶血性レンサ球菌 V型、 A群溶血性レンサ球菌 T28
	インフルエンザ菌	1	<i>Haemophilus influenzae</i> 型別不能

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等
医療機関	レプトスピラ	血清	1	不検出(nested-PCR)
	食中毒菌	便	1	不検出(ウェルシュ菌、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、腸炎ビブリオ、カンピロバクター、エルシニア・エンテロコリチカ、病原大腸菌)
保健所	レジオネラ属菌	喀痰	2	不検出(培養法)

小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	4	A群TB3264 (1)、A群T型別不能 (3)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

# 衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、平成31年2月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。

## 1 利用状況

### (1) アクセス件数

平成31年2月の総アクセス数は、173,847件でした。前月に比べ約21%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター\*173.5%、保健情報9.0%、検査情報月報3.4%、食品衛生1.8%、生活環境衛生1.4%、薬事0.8%でした。

\*1 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

### (2) アクセス順位

2月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「インフルエンザ流行情報(2018/2019)」、2位は、「大麻(マリファナ)について」、3位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」でした。インフルエンザが流行期に入っており、インフルエンザ流行情報のアクセス件数が増えています。

表1 平成31年2月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	インフルエンザ流行情報(2018/2019)	12,064
2	大麻(マリファナ)について	9,805
3	横浜市感染症情報センタートップページ	9,232
4	横浜市インフルエンザ流行情報9号(2018/2019)	7,469
5	横浜市インフルエンザ流行情報8号(2018/2019)	7,105
6	電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに？」	6,904
7	衛生研究所トップページ	6,266
8	横浜市インフルエンザ流行情報10号(2018/2019)	6,207
9	横浜市インフルエンザ流行情報11号(2018/2019)	5,161
10	感染症発生状況	2,268

データ提供: 市民局広報課

「インフルエンザ流行情報(2018/2019)」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/influenza/influenza-rinji-index2018.html>

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/health-inf/info/marijuana.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/>

### (3) 電子メールによる問い合わせ

平成31年2月の問い合わせは、2件でした(表2)。

表2 平成31年2月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
B群連鎖球菌感染症について	1	微生物検査研究課
麻しん感染防止について	1	健康安全課

## 2 追加・更新記事

平成31年2月に追加・更新した主な記事は、9件でした(表3)。

表3 平成31年2月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
2月 1日	横浜市風しん流行情報13号	掲載
2月 4日	感染症に気をつけよう(2月号)	掲載
2月 5日	横浜市感染症発生動向調査事業概要 平成29年(2017年)	掲載
2月 7日	横浜市インフルエンザ流行情報9号	掲載
2月14日	横浜市インフルエンザ流行情報10号	掲載
2月14日	横浜市風しん流行情報14号	掲載
2月21日	横浜市インフルエンザ流行情報11号	掲載
2月27日	横浜市における麻しん患者届出状況(2018年)	掲載
2月28日	横浜市インフルエンザ流行情報12号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】